

工法を選定するに当たり調査・診断は必要不可欠です。

ひびわれの調査・診断

- 1 目視調査
ひびわれの有無、状況、位置等を目視、双眼鏡等により確認
ひびわれ分布状態も同時調査する
暗い所や表面塗膜がある場合見落としやすいので注意する
- 2 ひびわれ幅の調査
ひびわれ幅を拡大率7倍の照明付クラックルーペにて正確に測定する
1本のひびわれに対し数箇所測定しその平均値をもってひびわれ幅とする
- 3 ひびわれ長さの調査
メジャーによりひびわれ延長を測る
- 4 コンクリート厚み調査
設計図書参照または現地測定
- 5 調査表作成
ひびわれ分布図など
- 6 診断・協議
- 7 ミクロカプセル工法決定

<調査・診断上の留意点>

- 表面に塗膜等がある場合
表面のひびわれ幅(見掛け幅)と
躯体のひびわれ幅(真のひびわれ幅)とが異なる場合があるので必ず表面塗膜を除去して測定する

標準工法 ひびわれ注入施工手順

- 1 下地処理
ひびわれ周辺のホコリ、油汚れ、塗膜などを取り除き
健全な面を出し
乾燥していることを確認する
- 2 注入孔位置の決定
できるだけ等間隔で
注入しやすい箇所を選ぶ
注入ピッチは、ひびわれ巾1.0mm
コンクリート厚150mmの条件の時、
1mあたり約4~5本
(約200~250mm)の取付けを標準とするが
注入ピッチは、ひびわれ巾や
コンクリート厚により異なるので
設計者や施工者の判断によるものとする
- 3 台座取付け
台座用接着剤の
配合比と可使用時間に注意し
全体を均一に混ぜる
1回の計量は可使用時間内に
使い切る量とする

接着剤は台座の中心穴を
ふさがないようにドーナツ状に
塗布する
台座の中心とひびわれを合わせ
接着剤が注入孔をふさがないように
取付け固定する

- 4 ひびわれシール工
液漏れしないように確実にシールする
特に台座周りや枝分かれしているひびわれの
末端・細部にも入念に塗布する
貫通しているひびわれには裏面もシールする
ピンホール(泡)がある場合は上から再塗布する
シール材の硬化時間を確認する
硬化を確認後注入を開始する
- 5 注入剤準備
注入剤は必ず現場の気温に適したものを使用する
硬化不良を避けるため配合比を守り
必ず1分以上全体を均一に攪拌する
容器の底の隅は混合しにくいので特に気を付ける
注入剤の可使用時間に注意し
1回の計量は可使用時間内に使い切る量とする

キャブコンに注入剤を満杯に入れ
キャップをしっかり閉めた後、本体に取付ける
- 6 注入開始
5の本体を台座に取付け、バネをゆるやかに
解除する
- 7 注入状況の確認
シール等から液漏れが無い事を確認
注入が完了するまで、キャブコンの中の注入剤が
空にならないように補充を繰り返す

- 8 注入完了
バネが動かなくなると注入は完了
- 9 養生
キャブコンに注入剤が十分残っている状態で
バネの圧力をかけたまま
衝撃や振動を与えないように養生する
養生時間は注入剤の硬化時間を確認する
- 10 撤去
注入剤が完全に硬化したことを確認してから
撤去する
台座用接着剤は熱風機で温めると軟化し
取り除きやすくなる
- 11 仕上げ・清掃
- 12 完了

<施工上の留意点>

- 注入剤の適用温度を確認する
- 下地が乾燥していることを確認する
特に降雪後の数日間は注意する
- 材料は直射日光を避け、乾燥した場所に保管する
- 夏季は特に施工環境温度に注意する
- タイル面やスラブ等への注入は熟練を要する
- 安全リングにロープを通すと落下を防ぎ、高所の
施工でも安心
- 施工前に施工要領書・梱包箱側面の取扱説明書を
熟読する



背面シールが不可能な場合

